

目的・昨年の本学会では、電気敷毛布のダイヤルの強弱や、通電条件を変化させて、就寝中の生体と与える影響について実験を行った。その結果、就寝時の寝床内温度が適温であれば、電気敷毛布の連続使用をされた方が、血圧の安定すること、また、寝床内の温度が高い程足部における熱流量は少なく、ダイヤル強で1時間前より通電して就寝時に通電をやめる条件が、生体と与える影響の少ないことを報告した。

今回は、前回と同様の条件で就寝中における酸素消費量の測定を行ったので報告する。

方法・電気敷毛布(三菱電気KK製)使用時の通電条件は、前回と同様で、環境条件は気温 $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、気湿60~70%、気流 0.5 m/sec である。被験者は女子2名(23才、25才)で、呼吸は、7時間の就寝中、30分毎にダグラスバック法で採取し、これをレスピライザー(フクダ産業)により分析した。

結果・1)電気敷毛布を用いた就寝時の酸素消費量は、就寝至過30分~2時間までに減少する傾向が見られ、この傾向は通電をしない条件以外の全例に認められた。2)就寝後2時間までに示された酸素消費量の減少は、7時間の就寝時間後期には、再び就寝前の値に増加した。3)電気敷毛布に通電しない場合には、酸素消費量の減少は見られず、通電中に比し、酸素消費量は多い。

オ^{}33 回日本家政学会総会講演要旨集 p.122 「電気敷毛布使用の効果と生体と及ぼす影響」を本研究のオ^{*}1報とする。